

## 最近の調剤医療費（電算処理分）の動向 平成 28 年 4 月

### ○ 概要

(1) 平成 28 年 4 月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同様。）は 6,365 億円（伸び率（対前年度同期比、以下同様。）▲0.8%）で、処方せん 1 枚当たり調剤医療費は 9,169 円（伸び率▲1.9%）であった。（→P.1~2）

調剤医療費の内訳は、技術料が 1,541 億円（伸び率▲0.2%）、薬剤料が 4,814 億円（伸び率▲1.1%）で、薬剤料のうち、後発医薬品が 702 億円（伸び率 3.0%）であった。（→P.4）

3要素分解 （→P.8-9）	処方せん 1 枚当たり 薬剤料	処方せん 1 枚当たり 薬剤種類数	1 種類当たり 投薬日数	1 種類 1 日当たり 薬剤料
実数	5,754 円	2.85 種類	23.5 日	86 円
伸び率（%）	▲2.4	▲2.3	+2.7	▲2.8

(2) 薬剤料の多くを占める内服薬 3,994 億円（伸び幅（対前年度同期差、以下同様。）▲52 億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは 21 循環器官用薬の 862 億円（伸び幅▲88 億円）で、伸び幅が最も高かったのは 62 化学療法剤の 158 億円（総額 362 億円）であった。（→P.10）

年齢区分 （→P.10~15）	内服薬 総額 （伸び幅）	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	3,994 億円 （▲52 億円）	21 循環器官用薬 （862 億円）	11 中枢神経系用薬 （649 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（530 億円）
0 歳以上 5 歳未満	41.2 億円 （▲3.5 億円）	44 アレルギー用薬 （18.4 億円）	61 抗生物質製剤 （9.8 億円）	22 呼吸器官用薬 （5.9 億円）
5 歳以上 15 歳未満	91.3 億円 （▲2.3 億円）	44 アレルギー用薬 （44.4 億円）	11 中枢神経系用薬 （15.0 億円）	61 抗生物質製剤 （11.2 億円）
15 歳以上 65 歳未満	1,401 億円 （+5 億円）	11 中枢神経系用薬 （281 億円）	21 循環器官用薬 （258 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（193 億円）
65 歳以上 75 歳未満	1,021 億円 （▲13 億円）	21 循環器官用薬 （264 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（159 億円）	11 中枢神経系用薬 （113 億円）
75 歳以上	1,440 億円 （▲39 億円）	21 循環器官用薬 （337 億円）	11 中枢神経系用薬 （240 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（173 億円）

(3) 処方せん 1 枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では 9,169 円（伸び率▲1.9%）で、最も高かったのは京都府（11,146 円（伸び率▲0.6%））、最も低かったのは福岡県（8,062 円（伸び率▲2.1%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは熊本県（伸び率 1.7%）、最も低かったのは秋田県（伸び率▲6.5%）であった。（→P.27~28）

## 《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品薬剤料】702 億円（伸び率：3.0%、伸び幅：20 億円）（→P.36~37）

【後発医薬品割合】（→P.35）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） <sup>注</sup>	64.8%	+6.1%
薬剤料ベース	14.6%	+0.6%
後発品調剤率	65.7%	+3.7%
（参考）数量ベース（旧指標）	43.1%	+4.6%

注）〔後発医薬品の数量〕 / （〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕）で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.37）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+3.0%	+13.2% （5 歳以上 10 歳未満）	▲4.1% （60 歳以上 65 歳未満）
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	14.6%	15.6% （75 歳以上）	9.8% （5 歳以上 10 歳未満）

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.38~44）

年齢区分 （→P.38~44）	内服薬 総額 （伸び幅）	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	625 億円 （+15 億円）	21 循環器官用薬 （175 億円）	23 消化器官用薬 （108 億円）	11 中枢神経系用薬 （69 億円）
0 歳以上 5 歳未満	6.0 億円 （+0.5 億円）	22 呼吸器官用薬 （2.4 億円）	61 抗生物質製剤 （1.3 億円）	44 アレルギー用薬 （1.3 億円）
5 歳以上 15 歳未満	11.5 億円 （+0.8 億円）	44 アレルギー用薬 （5.8 億円）	61 抗生物質製剤 （2.3 億円）	22 呼吸器官用薬 （1.9 億円）
15 歳以上 65 歳未満	207 億円 （+1 億円）	21 循環器官用薬 （50 億円）	23 消化器官用薬 （31 億円）	44 アレルギー用薬 （29 億円）
65 歳以上 75 歳未満	162 億円 （+3 億円）	21 循環器官用薬 （57 億円）	23 消化器官用薬 （27 億円）	33 血液・体液用薬 （18 億円）
75 歳以上	239 億円 （+10 億円）	21 循環器官用薬 （68 億円）	23 消化器官用薬 （49 億円）	11 中枢神経系用薬 （30 億円）

【後発医薬品 都道府県別】（→P.57~62）

	全国	最高	最低
処方せん 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	1,011 円	1,349 円（岩手県）	844 円（佐賀県）
処方せん 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	+1.8%	+7.6%（愛媛県）	▲3.3%（石川県）
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	64.8%	76.6%（沖縄県）	55.1%（徳島県）
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	14.6%	19.0%（鹿児島県）	11.7%（徳島県）
後発医薬品調剤率	65.7%	76.5%（沖縄県）	57.8%（山梨県）
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	43.1%	53.9%（沖縄県）	36.8%（山梨県）

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 平成 28 年 4 月現在の電算処理割合は、処方せん枚数ベース、医療費ベースともに約 99%である。